

JSRMPM ニュ - スレター 2008 年7 月3 日

地域医療機関ネットワークとその情報システム

連盟・学会理事長 酒井亮二

長い間、日本の医療機関は個として地域医療を担うことが前提でした。しかし、2005 年頃から本学会関係者の方々より「専門医療機関の地域ネットワーク化」が新しい大きな価値を創造すると提案されました。このネットワークには以下のような項目が見いだせます。

情報の共有....最先端医療の専門知識を共有しつつ、地域の様々なニーズにネットワークで対応する。
医療安全管理情報を異職種間ネットワークで共有する。
人材の共有....異なる専門医の間の協同、ならびに高度先進医療機関と総合医の協同。
各種専門医の地域人材派遣センター。
医薬品や医療器械の安全管理を専門とする地域人材派遣センター。
物品の共有.....患者紹介により、高額な診療器械を医療機関の間で共有する。
高度診断機器センターや高度検査機器センター。
等等。

以上の地域医療機関ネットワークからは以下のような新たなメリットが見出されています。

個々の医療人が最先端の医療専門知識を保ちつつ、地域として共同し医療活動を展開できる。
専門家を個々の医療機関に集約することができるため、無駄の少ない効率的な人材活用ができ、患者さんにも個別の医療機関の特徴がわかりやすい。
個々の医療機関が多くの多種専門家を配置しないで済むため、人件費を抑えることができる。
個々の医療機関が高額な医療器械を購入しない済むため、設備投資費を抑えることができる。

これらを一言でまとめると、「医療機関の専門性を高めつつ、地域の様々な医療需要に対して地域医療機関ネットワークとして対応をする」ことです。これから以下の重要な結論が見出せます。

- 1) 地域医療機関ネットワークにより、元々その特徴が異なる地域単位で、医療需要と医療供給に関する動態の定量分析が可能になる。これによって、医療供給の合理化・適正化を図ることができ、情報と技術の質を向上しつつ、人材、物および資金に関する医療資源活用の非効率を改善できる。
- 2) 地域医療機関ネットワークを円滑に運営するには、病床空席や待ち時間などに関するインターラクティブな地域医療情報センターが医療人と患者さんの双方に不可欠である。